



100年企業社員の わが社のひみつ

社員の方の日常からわかる、
100年企業の魅力。



会社内にインドアゴルフ場を設置。営業活動にも一役買うかも?!

昼休みや就業後に自主練習
気軽に打ちっぱなし
2打席完備。もちろん無料



設立時から受け継ぐロゴマーク。すべての車両に掲げています。

青い空と海原カラー
第一の「一」と
港運の「K」をデザイン



社員の交流の一環として年に1回ゴルフコンペも開催しています。

社長もラウンド
時々アドバイスももらいます
ナイスショット!



夏のお楽しみは、希望者を募って暑気払いと称した交流タイム。

笑顔で和気あいあい
明日からもがんばれる
コロナ終息したらまた...



子育て中の女性が働きやすい環境&人間関係も魅力の一つです。

育休・産休も取りやすい
最長1年半後に復帰
子どもの熱発時も安心



毎年1月と7月、若松恵比須神社へ安全祈願を大事にしています。

1月は商売繁盛と安全祈願
7月は安全週間の時に
協力・グループ会社と一緒に

■ 第一港運株式会社

本社：〒808-0034 北九州市若松区本町1丁目14-14 TEL.093-761-3135

■ 創業：1905(明治38)年 ■ 従業員：76名(グループ総人員173人)

■ 福岡営業所/響灘物流センター/響灘事業所/黒崎事業所/響灘1号倉庫/響灘2号倉庫/響灘3号倉庫/響灘4号・5号・6号倉庫/第一港運響灘7号倉庫・三和商運響灘2号倉庫

■ 事業概要：港湾運送事業/内航運送取扱業/通関業/一般貨物自動車運送業/通運事業/梱包事業/倉庫業/船舶代理店取扱業/自動車運送取扱業/産業廃棄物収集運搬業

(ホームページ) <http://daiichikoun.co.jp>

ホームページ



発行/若松プライド・プラスワン推進協議会(北九州市 若松区役所 総務企画課内) TEL.093-771-3559



この「若松レガシー」はポートレース若松の収益金の一部を活用して作成しています

JESCO JESCO北九州事業所は当事業に協賛します

令和4年3月発行

先代から受け継いだ
モノ、ココロ

経営理念
物流を通じて
地域と世界を結ぶ
架け橋になろう
より強固で粘り強い
架け橋になるよう
たゆまぬ努力を続けよう
お客様の利益に貢献し、
その証として
自社の利益を創造し
納税をもって
社会に貢献しよう

先代から受け継いできた第一港運の精神を、4代目社長の岡部太郎さんが経営理念として明文化。その一文、一文を、単なる理念としてではなく実証してきたことが、117年続く企業の根幹を支えています。

採用の取り組み、
求める人材



変化し続ける物流業界に対応するには、柔軟な発想力が大切。「笑顔を忘れずチャレンジ精神をもって何事も全力で取り組める人」「広い視野をもち先を考えて行動することができる人」を求め!

100↑



若松レガシー

第一港運株式会社

2022 R4 O3

石炭の積出港として日本の近代化を支えた若松の誇り、100年企業を紹介するシリーズです。



若松で117年続く 「第一港運株式会社」の ひみつを探ってみた。

沖仲仕を束ねた岡部組からスタート

若松南海岸の観光スポットでもある「旧ごんぞう小屋」。かつて沖の本船で石炭荷役をする沖仲仕・ごんぞうの詰め所だったこの場所の向かい側に、「第一港運株式会社」の本社があります。その始まりは、明治時代、岡部亭蔵さんが立ち上げた「岡部組」でした。石炭隆盛期には岡部組のように沖仲仕を束ねる組織が数多く存在していましたが、1943(昭和18)年、主要港湾一社制により「若松港運株式会社」に統合。それが戦後再び解体され、1949(昭和24)年、「第一港運株式会社」が設立されました。

陸海空を制する一貫輸送ネットワーク

石炭の荷役を主要業務として、日本の近代産業を支えてきたという自負をもって、戦後は産業構造の変化に伴う物流の近代化にもいち早く対応。当時は許可制だった、一般港湾運送事業、はしけ運送事業、通関業、貨物運送取扱事業などの許可を次々と取得し、輸出入通関手続きの代行業務も充実。輸送においては、陸海空を制する複合一貫輸送ネットワークを構築し、物流拠点としての倉庫も響町を中心に市内に数多く開設しました。

石炭に始まり港湾運送の雄へ。 互助共栄の精神でひらく未来。

M&Aを通して共に成長と繁栄を

創業100年を越えた2007(平成19)年にはスタンダード&ブアーズ社によるS&P日本SME格付け“aaa”取得。これは中堅・中小企業を対象にした信用格付けで、最上位の“aaa”は債務履行能力が極めて高いことを示します。この第三者評価を得て、10数年前からは財務や後継者問題に悩む同業他社のM&Aにも取り組み、5社のグループ会社化に成功。博多港で港湾運送の認可を持つ株式会社笠組が傘下に入ることで商圏を広げ、さらに業績を伸ばしています。また、韓国や中国の企業と共同出資で物流会社を立ち上げ、韓国釜山新港で新たな物流センターも運営し始めました。

個性の強い企業文化を持つ他社を統合できた背景には、かつての岡部組がたどった統合と解体の遺産が組み込まれているように感じられます。さまざまな多様性を尊重し合いながら、互助と共栄の精神で時代の荒波を乗り越える。石炭荷役に始まり、117年持続する企業ならではの強みがここにあります。

主な事業内容

【港湾荷役】船舶代理店業務、輸出入通関業務、乙仲業務
【倉庫保管】コンテナ作業、流通加工、構内作業
【輸送】陸上貨物輸送、海上貨物輸送、航空貨物輸送



アマチュアゴルフの日本代表選手として競技していた岡部社長。90年-94年のアジア大会では2大会連続金メダルを獲得。

社長の20代

[インタビュー]

社長さんに聞いてみた。

第一港運株式会社 代表取締役社長 **岡部 太郎**さん

「なりたい自分の将来像やゴールを、まずはイメージすることが大事」と岡部社長。近年はM&Aを通して、港湾運送業界の持続可能な未来へ取り組んでいます。

—117年続いた原動力は何でしょうか？

曾祖父の岡部亭蔵が石炭の本船荷役に従事していて、岡部組を組織したのが始まりです。石炭から石油へのエネルギー転換期を乗り越えて、組織の形態や取扱貨物は変えながらも、一貫して港湾運送業を機軸にぶれずにやってきたのが原動力でしょうか。アジアの玄関口として輸出入貨物にも力を注いでいますが、今なお石炭も多く取り扱っています。

若松で生まれ育った人たちが、日本各地や世界へ羽ばたいて活躍することが大事。企業も同じで、若松の会社が広い世界に出て行って活躍することで、若い人たちが故郷を誇りに思うことにもつながると思っています。

—第一港運ならではの強みや魅力は？

四方を海に囲まれた日本の港湾運送業は国土交通省の許可制ですから、新規参入しにくい業態であること。国との連携や信用も大切にすし、誰でもできる仕事ではないというのも強みの一つだと思います。とにかく誠実に、できることを、できる範囲でやること。そうして積み上げてきた会社の成長や発展を実感できることが、社員の高いモチベーションにつながるとしています。

—若松との関わりについて

創業地である若松のために会社としてできるのは、ひと言で言えば「納税」だと思っています。経営理念にも掲げていますが、我々がしっかり働いて、利益を出す。その納税をもって地域に貢献したいと思っています。

—社長にとって若松とは？

若松は海水浴を楽しめる海辺があり、人々の暮らしと海の距離が近いまちです。そんな

—社長の好きな言葉やモットーは？

「志あれば、必ず道はある」。私は中学から30歳までアスリートとして競技ゴルフをしていましたが、スポーツの世界も同じです。まずは「こうなりたい」ゴールをしっかり思い描き、それに向かって努力する。私には、会社を発展させるための具体的なビジョンがあります。近年取り組んでいるM&Aでも、5社すべてが以前よりも業績を改善。数字が上がれば活力もでますし、みんなが明るいマインドになれば相乗効果も上がると思います。

第一港運 117年の軌跡

時代	年	出来事
明治	37 (1904)	若松港が特別輸出港に指定
	38 (1905)	中間市で「岡部組」として石炭輸送業務を開始
	2 (1913)	現在の若松区に移転。共働組に改称
	2 (1913)	国内最大の石炭積出港に
大正	10 (1921)	若松港が第二種重要港湾に指定
	18 (1943)	若松港運送株式会社に統合される
	24 (1949)	統制会社解体命令により「第一港運株式会社」設立
	38 (1963)	五市合併。若松市から若松区へ
昭和	38 (1963)	一般港運運送事業及び、はしけ運送事業免許を取得
	45 (1970)	通関業免許、貨物運送取扱事業免許を取得
	61 (1986)	小倉北区西港に小倉流通センター開設
平成	63 (1988)	若松区響町で響灘1号倉庫建設。響灘流通センター開設
	4 (1992)	若松区響町に響灘事業所を開設
	11 (1999)	北九州市の産業廃棄物収集運搬業許可を取得
	19 (2007)	スタンダード&ブアーズ社によるS&P日本SME格付け“aaa”取得
令和	21 (2009)	三和開発株式会社(現・三和商運)をグループ会社化
	24 (2012)	韓国企業2社、中国企業1社との共同出資による物流会社「KI Global Logistics(株)」を設立
	26 (2014)	株式会社笠組をグループ会社化
	27 (2015)	創業110周年
	3 (2021)	西杵ホールディングス株式会社をグループ会社化

若松のまちや人との関わり



まちの安全を守り楽しみをつくる—若松での映画ロケにも協力。

2代目社長はフィルムコミッションの先駆けに。

第一港運は、故・高倉健さんが中学時代にアルバイトしていたことも知られます。2代目社長の岡部宏輔さんは、俳優や映画関係者との交流も多く、「花と龍(1969/高倉健主演)」や「玄海つれづれ節(1986/吉永小百合主演)」など20本以上の映画制作に協力。現在のフィルムコミッションの先駆けともいえる活動を行い、「若松は国内有数のロケ地」と呼ばれた時代に貢献しました。

自分たちのまちを守る—洞海湾消防団活動。

北九州市には、自分たちのまちを自分たちで守るという郷土愛の精神に基づいて、市民で組織された「消防団」があります。市内7区+洞海湾区域の合計8つの消防団があり、第一港運では古くから洞海湾消防団の役員を担ってきました。1月の北九州市消防出初式には所有する消防艇で参加し、洞海湾周辺の地域に密着した消防防災活動を続けています。



第一港運 × SDGs

響灘倉庫に太陽光パネルを設置。

第一港運では2013(平成25)年、若松区響町に立ち並ぶ響灘3号~6号倉庫に太陽光パネルを設置。本社では、その発電量や二酸化炭素削減量等のデータをモニターで可視化し、再生可能エネルギーへの関心を高めています。SDGsの取り組みの中でも、自社の課題は二酸化炭素排出量の削減にあるととらえており、岡部社長は「フォークリフトやトレーラーなど大型車両における電動化が可能になれば、いち早くシフトを検討したい」と語ってられました。

